

Vision2008 研修報告

日本ライトハウス
養成部 田邊正明

はじめに

Vision は 3 年毎に開催されている国際ロービジョン学会である。今回の Vision2008 はカナダ、モンリオールで 7 月 7 日から 11 日まで開催され第 9 回になる。これまでに開催された国際ロービジョン学会は以下の通りである。

第 1 回 (1986 年) : Asilomar International Low Vision Conference in California by American Foundation for the Blind and the U.S. Department of Veterans Affairs.

第 2 回 (1998 年) : International Low Vision Conference, Beverly Hills, California, sponsored by American Foundation for the Blind.

第 3 回 (1990 年) : The International Low Vision Conference, the Second “Low Vision Ahead” conference sponsored by Association for the Blind, held in Melbourne, Australia.

第 4 回 (1993 年) : The International Low Vision Conference held in Groningen, The Netherlands, sponsored by Visio and the University of Groningen.

第 5 回 (1996 年) : Vision’96, International Low Vision Conference sponsored by O.N.C.E. held in Madrid, Spain.

第 6 回 (1999 年) : Vision’99. International Low Vision Conference, sponsored by Lighthouse International held in New York, U.S.A.

第 7 回 (2002 年) : Vision 2002. International Low Vision Conference, sponsored by the Swedish Association of the Visually Impaired (SRF) held in Gothenburg, Sweden.

第 8 回 (2005 年) : Vision 2005. International Low Vision Conference, sponsored by Royal National Institute of Blind People(RNIB) and Action for Blind People, held in London, U.K.

第 9 回 (2008 年) : Vision 2008. International Low Vision Conference, organized by Institut Nazareth et Louis-Braille and Université de Montréal, held in Montréal, Canada

国際ロービジョン学会が開催されるまでには以下のような出来事が挙げられる。

1953 年 : Industrial Home for the Blind(IHB)と New York Lighthouse で最初のロービジョンクリニックが開業した。General Fonda と Eleanor Faye によって 1950 年代最初に Low Vision という用語が作られた。

1960 年 : Boston 大学で Orientation & Mobility プログラムの第 1 期の卒業生が出た。

1972 年 : West Michigan 大学で Orientation & Mobility プログラムの 1 部分として Low vision コースが設置された。

1983 年 : Pennsylvania 大学、College of Optometry で最初の視覚障害リハビリテーションの修士課程ができた。

参加者は、眼科医、オプトメトリスト、視能訓練士、リハビリテーション関係者など、視覚障害リハビリテーションに関わっている様々な職種で構成されている。テーマは「調査、リハビリテーション、共生(Research Rehabilitation Partnership)」であった。Visionが目標とするのは2020年までに全盲の人たちを世界からなくすことである。

1. 参加者の内訳

Vision2008では表1に示したように70カ国から1,123名参加した。10名以上の参加があった国をグラフにすると図1の通りである。日本からは34名参加し、世界7位の派遣人数となっている。参考までに前回のロンドンで開催されたVision2005の参加国(表2)と比較してみると、アジアからは前回には参加が見られなかった中国(China)があることは注目に値する。開催国の人数が一番多いのは当然であり、さらに英語を母国語とするアメリカ(U.S.A.)、イギリス(U.K.)、オーストラリア(Australia)、カナダ(Canada)が7位以内に入ることは仕方がないことであろうが、オランダ(Netherlands)が常に7位以内に入っているのは視覚障害リハビリテーションに対する意識が高いことを表しているのだろうか。日本からの参加者は表3に示したように、筑波大学から5名、宮城教育大学から4名を筆頭に東日本からの参加者が多かったが、西日本からは川崎医療福祉大学、岡山県立大学、高知女子大学から参加があった。

表1. 各国別参加者人数

国名	人数	国名	人数
		Malaysia	10
Canada	389	Bangladesh	9
U.S.A.	183	Germany	9
U.K.	80	Hong Kong	9
France	52	Switzerland	9
Australia	39	New Zealand	8
Netherlands	36	Finland	7
Japan	34	South Africa	7
Nigeria	19	Israel	6
Spain	18	China	5
Denmark	17	Congo	5
Belgium	16	Mexico	5
Sweden	15	Pakistan	5
India	13	Philippines	5
Brazil	12	Portugal	5
Norway	12	Saudi Arabia	5
Italy	10	Brunei	4

Greece	4	Indonesia	1
Sudan	4	Iraq	1
Botswana	3	Ireland	1
Croatia	3	Mongolia	1
Czech Republic	3	Niger	1
Jordan	3	Poland	1
Qatar	3	Puerto Rico	1
Romania	3	Reunion	1
Uganda	3	Russia	1
Algeria	2	Rwanda	1
Iceland	2	Saint Lucia	1
Kenya	2	Senegal	1
Morocco	2	Taiwan	1
Nepal	2	Thailand	1
Slovenia	2	Uruguay	1
Sri Lanka	2	Venezuela	1
United Arab Emirates	2	Yugoslavia	1
Cameroon	1	合計	1123
Costa Rica	1		
Ghana	1		

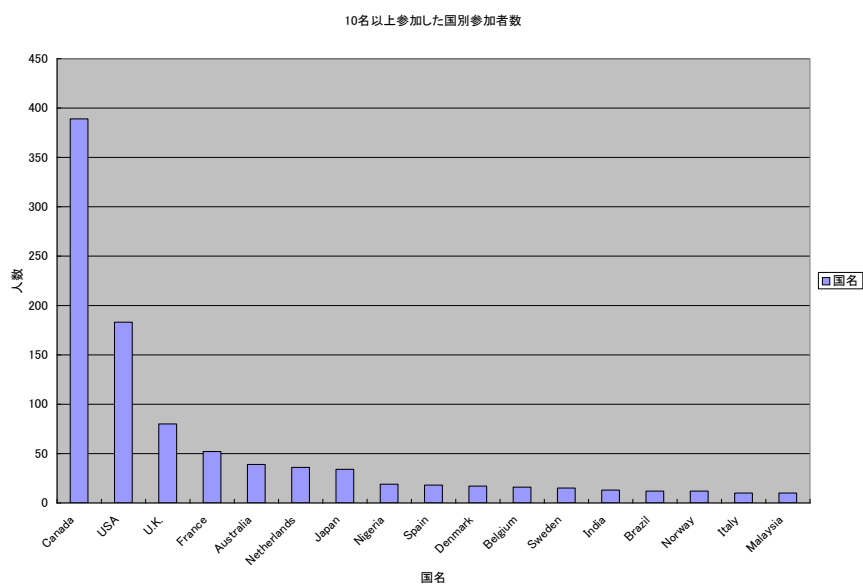


図1. 10名以上の参加国

表 2. 参考 Vision2005 の参加者

国名	人数		
		Qatar	3
U. K.	386	Saudi Arabia	3
U.S.A.	131	Argentina	2
Sweden	46	Bangladesh	2
Japan	37	Czech Republic	2
Netherlands	34	Egypt	2
Canada	32	Iceland	2
Australia	31	Palestine	2
Ireland	28	Philippines	2
Germany	24	Russia	2
Denmark	23	Taiwan	2
Norway	21	Thailand	2
Finland	18	Turkey	2
South Africa	17	Uganda	2
Belgium	15	Vietnam	2
Spain	15	Zambia	2
Italy	14	Armenia	1
India	13	Austria	1
Israel	13	Chad	1
France	10	Croatia	1
Portugal	10	Gambia	1
Switzerland	10	Hungary	1
Hong Kong SAR	9	Iran	1
Ghana	8	Luxembourg	1
Brazil	6	Malawi	1
Pakistan	6	Malaysia	1
New Zealand	5	Mexico	1
Slovenia	5	Nepal	1
Greece	4	Niger	1
Serbia	4	Republic of Korea	1
Jordan	3	Singapore	1
Kenya	3	Tanzania	1
Nigeria	3	Togo	1
Poland	3	Tunisia	1

表 3. 日本からの参加者

Aoki	Shigeyoshi	Miyagi University of Education
Arai	Chikako	Kyorin eye center
Arai	Tetsuya	Keio University
Asa	Koichiro	Yokohama National University
Endo	Naomi	Miyagi University of Education
Fujiwara	Atsushi	
Kakizawa	Toshibumi	University of Tsukuba
Kawasima	Hidetsugu	Aichi Shukutoku Univ.
Kensuke	Oshima	Tokyo Metropolitan University
Kobayashi	Akira	
Kobayashi	Iwao	Tokyo Gakugei University
Matsubara	Madoka	Miyagi University of Education
Miyauchi	Hirose	University of Tsukuba
Mori	Mayu	University of Tsukuba
Nagai	Haruhiko	Kin-1-Kyo Sapporo Hospital
Nagai	Nobuyuki	Miyagi University of Education
Nakamura	Takabun	Okayama Prefectural University
Nakano	Yasushi	Keio University
Oda	Koichi	Tokyo Woman's Christian Univ.
Sagawa	Ken	AIST, Japan
Sashima	Tsuyoshi	University of Tsukuba
Shishi	Katsumi	
Tabuchi	Akio	Kawasaki Univ. of Med. Welfare
Tanabe	Tadaaki	Nippon Lighthouse
Tanaka	Etsuko	Kyorin Eye Center
Tauchi	Masaki	Okayama Prefectural University
Toriyama	Yoshiko	University of Tsukuba
Ueno	Eiko	
Watanabe	Ayumi	Aichi Shukutoku University
Wu	Chunhui	
Yamaguchi	Eri	
Yamamoto	Yuriko	

Yamanaka Kyoko
Yoshino Yumiko Kochi Woman's University

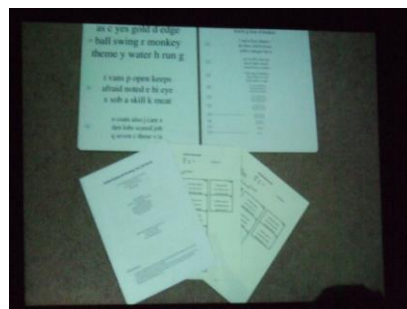
2. 口頭発表及びポスター発表

口頭発表は500以上、ポスター発表は270あり、要旨が提出された発表演題は全部で843題であった。発表の内訳は世界の小児のロービジョンケア、行き先を見つけるための新しい地図の技術、老人学などの(1)調査、リハビリテーションの講座(Research and Rehabilitation Session)、(2)次世代を担う人々の講座(50名が選ばれた)、(3)シンポジウム、(4)生涯教育認定単位コース(CEC)、(5)全体会議で構成されていた。CECはアメリカ、カナダなどのオプトメトリストの協会から単位の取得が認められている。

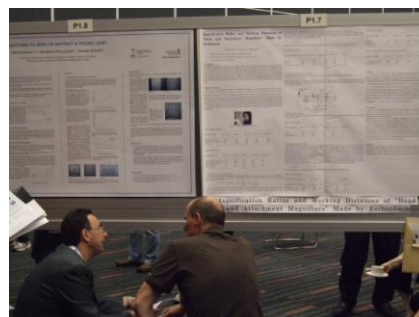
7月7日は開会式(右写真)のあと、Robert Kursonの著書「Crashing Through」でも紹介されていて、映画にもなっている全盲の冒険家、Mike May氏が、スピーチを出してすべるスキー、視力回復への挑戦について基調講演を行った。



午後からはCECの講座があり、Tiemann Groupの一員でもあるW.B. Mattingly氏の「PRL Assessment and Training Tool」を受講した。PRLとはPreferred Retinal Locusのことであり、アセスメント(右写真)、中心外固視の確定方法、練習方法の講義であった。I. L. Bailey氏のRational Procedures for Prescribing Optical Magnifiers for Near Visionも受講しようとしたが、先行登録が必要であることが会場で分かり、受講できない参加者が多数生じた。



7月8日の基調講演はWHO(世界保健機構)、疾病管理担当Dr. Serge Resnikoff氏による世界の眼疾患状況についてであった。経済の変化によりアフリカ地域における感染症による眼疾患人口の減少がある一方、人口動態の変化による慢性疾患の増加が特徴であると語った。日本の環境が紹介されたスライドでは満員電車で駆け込む日本人の姿が映し出されたのには苦笑した。そのあとポスターセッションが開始され、私は「Magnification Retios and Working distances of “Head and Attachment Magnifiers” made by Eschenbach」の演題でポスター発表をした(右写真)。補助具のセッションIでは高齢の人がテレビを見るにはEschenbach1623のガリレイシステムが非常に効果的であることが興味深かった。



7月9日には補助具のセッションⅡで20Dから24Dの4社のスタンドルーペの検証で、眼をルーペに近づけたからといって鮮明に見える文字数が増えるとは限らないという結果は新しい発見であった。また、CECの講座でI.L.Bailey氏による視力ワークショップの中で近見視におけるCritical Angular Size(CAS)、Preferred Angular Size(PAS)を使用したアセスメントの解説が行われた。午後は、INLB(Institut Nazareth & Louis Braille)の施設見学があった。ケベック州で最大の視覚障害リハビリテーションセンターであり、歩行訓練士、オプトメトリストなど充実したスタッフで、訓練は無料で行われており、点字印刷所、ロービジョン室、幼児教室、コンピュータ訓練室(右写真)などを見学した。



7月10日の基調講演はインドで眼科のケアに尽力したDr. Jay Enoch氏が行い、インドの全盲の人口は世界の1/3を占めていて、視覚障害リハビリテーションの必要性を説いた。歩行訓練のセッションでは、雪上歩行での白杖の利用法が紹介されていた。寒さから手を守るため特別な手袋を用意したり(右写真)、ボールチップを装着するという工夫がされていた。また、歩行訓練に関するポスターで興味深かったのは、スウェーデンでは歩行訓練士が現在いないので、ストックホルム大学で通信教



育により現職の職員を教育するという1年間だけの試みが紹介されていた。担当者はオーストラリアで歩行訓練士の勉強をしたとのことであった。また、イスラエルの発表で、東ヨーロッパと西アジアでは十分な歩行訓練が受けられないので、視覚障害児の母親を集団で訓練して、子供たちに教えられるようにしようとの試みが紹介されていた(左写真)。さらに、CECの講座

ではJ.Lovie-Kitchin氏による現在までの30年間におけるロービジョン訓練の発展が語られた。

7月11日はカナダ出身の宇宙飛行士Dr. Roberta Bonder氏の講演で締めくくられた。

3. Vision2008の成果

Visionは世界からロービジョンに関わる著名人が集まっている。今回はロービジョン訓練の草分けであるI.L.Bailey氏、J.Lovie-Kitchin氏の講義が聞けたことが大きな成果であった。また、私が翻訳に関わったAdvanced Low Vision Opticsの著者であるMattingly

International の W. B. Mattingly 氏と直接会話できたことも国際会議でしか経験できないことであった。

ポスター発表では、Eschenbach のアメリカの担当者からデータについて直接問い合わせがあり、今後アメリカのカatalogが訂正されることも期待された。予稿集に掲載された要旨は以下に添付した。